



IFES Issues and Analysis - NO.88 [2019-06] Nov. 4, 2019

金剛山観光 南北関係改善のきっかけに



林乙出
慶南大極東問題研究所教授
peter@kyungnam.ac.kr

金剛山観光事業が今後の南北関係の運命を左右する問題として浮上した。金正恩(キム・ジョンウン)国務委員長は金剛山観光地区を現地指導した際、韓国側施設の撤去を指示し、撤去に向けた文書交換方式による協議を提案した。南北関係、米朝関係のいずれも突破口を見いだせずにいる中、金委員長は韓国にとって大きな挑戦要因となっているようである。金委員長の今回の現地指導メッセージは金剛山観光問題を前面に出し、対韓・対米膠着局面の転換を狙う試みであり、対韓・対米に圧力をかけるという多目的のカードとみられる。現段階では北朝鮮側の意図や戦略を正確に把握することが重要であろう。このためには何としても北朝鮮の責任のある当局との会談を実現させ、金剛山観光問題の変化・解決を通じ、南北関係正常化の機会にすることが急務といえる。

北朝鮮は2008年に金剛山観光が中断されてから、観光の再開を試みてきた。金剛山観光事業は先代の金正日(キム・ジョンイル)国防委員長の遺訓事業であるということもあるが、観光産業を前面に打ち出した経済発展戦略という側面から欠かせないものであったためである。金委員長は国際社会の対北朝鮮制裁の下でも経済発展を推進することができる中心的な原動力かつ手段として観光を重視している。そのため、北朝鮮は内部の観光資源を積極的に開発し、住民生活の向上につなげ、外貨稼ぎにも貢献させようとしている。金委員長が今年の新年の辞で「無条件に」金剛山観光を再開するよう提案したのもこうした理由からである。金正恩政権の立場では金剛山観光は選択するものではなく必須の課題であるのだ。

「金正日将軍様は北と南が厳しく対峙している軍事地域を観光地として丸ごと引き渡す大きな勇断を下した」。2015年、金剛山観光の実務を担当している朝鮮金剛山国際旅行社の関係者が中国で開いた金剛山投資誘致説明会で行った発言である。その上で、「民族の和解と協力に大きな寄与をしてきた金剛山観光が破たんし、今日までも再開できていないのは、全的に対共和国敵視政策の結果」と規定した。そしてそのうえで、金剛山観光は必ず再開されなければならないと強調した。

北朝鮮は、南北協力を通じた金剛山観光事業が難しくなるや、国際協力の方式に転換して事業の継続を試みた。北朝鮮は2008年7月のパク・ワンジャ氏射殺事件以降、2011年8月に韓国側資産を没収・凍結したうえで、金剛山国際観光特区法を制定し、中国人など外国人向けの金剛山観光事業を推進してきた。2011年8月には万景峰号を利用し、国際観光のテスト事業を実施した。北朝鮮の最高人民会議常任委員会は2014年6月11日に政令で、「元山・金剛山国際観光地帯」を正式に発表した。2012年には金剛山を北東アジアの5カ国と陸・海・空路で結び、特に元山—金剛山の中間地点である江原道・通川郡に大規模な「通川自由経済貿易開発区(特区)」を建設する計画も立てた。金剛山観光を国際的な規模で活性化させようとする金委員長の意志が反映された措置だった。金剛山地区を世界的な観光地、経済中心地に発展させようとしたのである。しかし、その後、外資誘致は思い通りに進まず、金剛山を訪れる外国人観光客も少数にとどまった。金剛山観光は実際に韓国との協力なくしては、実効性と経済性を確保することが困難であるということが痛感された。金委員長が初めて金剛山を訪問し、韓国側施設の撤去を指示しながらも、韓国側の観光客が来るならいつでも歓迎すると表明したことに注目すべきである。

韓国が選択するべき道は明確である。金剛山観光は単純な観光事業にとどまらず、南北関係の発展はもちろん、非核化をめぐる米朝協議とも密接に関わっているため、何としても今の接触・対話をきっかけに反転の機会をつくらなければならない。南北関係が正常化しなければ、金剛山観光はもちろん、いかなる南北協力事業も成り立たない。南北の間で緊張ばかりが高まり、膠着している状況では何もできない。南北関係はもちろん、非核化の突破口にするため、金剛山観光問題を賢明に活用するべきである。昨年9月19日の平壤共同宣言で南北の首脳が西海観光共同特区の建設で合意したため、同合意の精神と内容に基づいて解決していくことが望ましい。それには、金剛山と元山を連携して開発し、南北の双方が経済的な利益と平和協力の利益を共有することができる協力案を具体的に提示する必要がある。国連安保理と米国の対北制裁に抵触しない範囲内で問題を解決していく段階的な推進策を練らなければならない。米国側と協議しながら南北関係の独自性を発揮できる余地をつくることも重要な課題である。これらは単に金剛山観光に限らず、南北関係を悪化させることなく正常に進展させる鍵である。

MORE ARTICLES

—上記の研究所の公式な立場を示すものではありません。
—メーリングリストに登録をご希望の方はお名前や電子メールアドレス、所属先を下記のメールアドレスまでお送りください。 ifes@kyungnam.ac.kr

You can remove your email address from our mailing list by clicking link below

[\[No longer receive e-mail\]](#)



경남대학교 극동문제연구소
The Institute for Far Eastern Studies

COPYRIGHT(C) 2010 IFES ALL RIGHTS RESERVED
2(Samcheong-dong) Bukchon-ro 15-gil, Jongno-gu, Seoul 110-230,
Republic of Korea
TEL. +82-2-3700-0739 FAX. +82-2-3700-0707
EMAIL. ifes@kyungnam.ac.kr